

「平成30年度『学びのスタンダード』推進事業」の推進地域の取組

パイロット校名	埴町立埴中学校 埴小学校
推進協力校名	埴町立笹原小学校

埴はひとつ！ ～オール埴でスタンダード推進～

2年目の平成30年度も、昨年度と同様に、埴町学力向上推進事業との一体化を図り、町内全ての小・中学校で、『学びのスタンダード』推進事業に取り組んだ。

1 パイロット校の取組内容

(1) 「授業スタンダード」の活用

- 「授業スタンダード」を学校課題研究に取り入れ、実践内容の焦点化を図った。また、学習指導案の中に「授業スタンダード」に基づいた学習過程や手だての工夫等を明記し、「授業スタンダード」との関連を明確に示した。
- 授業参観の際の視点とした。(チェックシートの活用)
- 日々の授業の拠り所とした。

(2) パイロット校Ⅰ（埴中学校）における「タテ持ち」の取組

数学科において、「タテ持ち」とTT形式を組み合わせるなど、指導体制を工夫した。具体的には、以下のような指導体制をとった。

3学年	A	D	B	D
2学年	A	B	A	C
1学年	A	C	B	C
	1組		2組	

教員A・B・・・数学科教員
 ※教員C・・・中高一貫連携加配教員
 教員D・・・音楽科教員（3学年担任）

(3) パイロット校Ⅱ（埴小学校）における「教科担任制」の取組

社会科・理科・外国語活動において、教科担任制を実施した。

具体的には、以下のような指導体制をとった。

教科等	担当教員	対象学年
社会科	教務主任	5学年
理科	専科教員	4・5・6学年
外国語活動	専科教員	全学年

【5学年の時間割例】

	月	火	水	木	金
1	国	理	国	算	国
2	算	外	社	外	書
3	音	社	図	理	算
4	理	体	図	家	社
5	学	算	音	国	総
6		道	算	ク	

■ が教科担任による授業→

(4) 推進教師の役割と具体的な取組

① パイロット校Ⅰ

- パイオニア授業の実施（対話的な学び）
- 全校での取組の改善
- 共通理解・実践を図るためのアンケートの実施、分析
- 指導力の向上のための指導案の確認（「授業スタンダード」との関連付け）



【ペアでの学び合い】

② パイロット校Ⅱ

- 推進教師と担任によるTT実践（教科担任制の推進）
- 「授業スタンダード」に基づいた授業実践への支援
- 「研修だより」の発行
- 校内研修の活性化

2 推進協力校の取組内容

【笹原小学校の取組】

「言語を手がかりに、主体的に読み、適切に表現する子どもを育てる授業づくり ～国語科「読むこと」の説明的な文章の指導を通して～」という主題のもと、全学年において授業研究に取り組んできた。

事前研究会では、各教室において板書計画を提示しながら話し合いを行った。授業スタンダードをもとに、授業の流れや指導の重点について明確にできるようにしてきた。事後研究会においても各教室で行い、少人数グループによるKJ法で授業の成果と課題を話し合った。

推進協力校として、6月と10月の2回授業研究会を開催し、町内のパイロット校Ⅰ、Ⅱの教職員に授業を公開した。



3 成果と次年度へ向けて

(1) 成果

- 「授業スタンダード」との関連を図った日々の授業実践及び授業研究を進めることにより、学習過程や手だての工夫など、主体的・対話的で深い学びに迫るための授業改善のポイントが明確になり、授業の質的改善が図られた。
- 「対話的な学び」を意識した授業改善への試みにより、教師の授業づくりに対する意識の変化が見られた。
- 「教科担任制」や「タテ持ち」など、児童生徒だけでなく、教師側も効果を実感できるようになった。

(2) 次年度へ向けて

- 「タテ持ち」や「教科担任制」の充実を目指し、効果的な指導体制の工夫を図る。
- 育てたい資質や能力を明確にした、単元計画の工夫を図る。
- 「対話的な学び」を充実させるための、教師のコーディネート力の向上を図る。
- 「家庭学習スタンダード」の活用と「自己マネジメント力」の育成を図るための取組を本格化させる。